

トリニタイムーン利用規約付き使用フリー脚本 002  
『新しいお母さん』

20151029  
高辻カンナ

男性 0人

女性 2人

その他 0人

まどか……年頃の娘

晴美……新しいお母さん

- 
1. 晴美 『使用フリー脚本』002』
  2. まどか 『『新しいお母さん』』  
ちよつと間。
  3. 晴美 「まどかちゃん。晩御飯できたわよー。まどかちゃん。あら？」
  4. まどか 「か、かってに部屋にはいつてくるんじゃねえよ」
  5. 晴美 「だってドアが開いてたんだものー。でも、ごめんね。お母さん、まどかちゃんを怒らせちゃったかしら」
  6. まどか 「ああ、げきおこだよ。でもその前に、言っておく。お母さんじゃねえよ。あたしはまだ、あんたを新しいお母さんとは認めてないんだからな」
  7. 晴美 「ああん、お母さん、悲しい。でもせめて、『あんた』って呼ぶのはやめて欲しいわあ。だって、もう一緒に暮らしてるんだもの。ね、せめて名前で呼んで。お願い、まどかちゃん」

8. まどか「ちえっ、しょうがねえなあ」
9. 晴美「じゃあ、呼んでみてえ」
10. まどか「今なのかよ」
11. 晴美「うん、い、ま。お願い、はやくう」
12. まどか「は、晴美……さん」
13. 晴美「ああん。嬉しいわあ。お母さん、こんな可愛い妹が欲しかったのお。もー、ぎゅっ、ぎゅっ、ぎゅっ」
14. まどか「抱きつくくんじゃねえよ、うっとおしいなあ」
15. 晴美「可愛い妹みたいだけど、戸籍上は娘になるのよねえ。でも歳が近いんだから、気持ち的には妹になっちゃっても仕方がないわよね。うーん？ まどかちゃんはどういう気持ちかな？」
16. まどか「そういうデリケートなことを直球で聞くなよ。あたしだって、まだ整理がつかなくて悩んでるんだよ。少しは察しろ」
17. 晴美「あら、悩み？ お母さんに、何でも相談してごらんさい。お母さん、まどかちゃんの力に、きつとなってみせるわ」
18. まどか「だから、晴美さんのことで悩んでるんだよ。お母さんお母さんって何度も言うな。って言うか、部屋を出てってくれる？ この家には、プライバシーもないのかよ」
19. 晴美「うーん？ あのね、お母さんもね、それはちょっと困ってるのよ？」
20. まどか「……どういうことだよ」
21. 晴美「あら、まどかちゃん、聞いてくれるの？ 優しいわあ」
22. まどか「単なる興味だよ。優しいからじゃねえよ」

23. 晴美「あのね、この家、ちょーっと壁が薄いでしょ？ お母さんとお父さんが、夜中にえっちしてる時の声、まどかちゃんに聞こえてないかしら？ どう？」
24. まどか「だから直球で聞くんじゃないよ。答える方が逆に気まずいだろ」
25. 晴美「で、どう？ やっぱり聞こえてる？」
26. まどか「ああ、ばっちり聞こえてるよ。毎晩、あんあんあん、良くも飽きずにやってるな」
27. 晴美「あーん。お母さん、やっぱり声が大きく出ちゃうのよねえ。でもね、それはお父さんがテクニシャンだからなのよ？ ひとりでする時は、もう少し静かよ？」
28. まどか「そんなこと聞いてねえよ。っーか、お父さんと晴美さんがえっちしてる姿、想像しちゃうだろ。年頃の娘には、もっと気をつかえよ」
29. 晴美「まどかちゃんは？ 声がやっぱり出ちゃうタイプ？」
30. まどか「あたしのことは、どうでもいいだろ。第一、何でそんなことまで、晴美さんに話さなきゃいけないんだよ」
31. 晴美「あらあ。家族の間では、隠し事はなしだわ」
32. まどか「それは普通、隠す事だろ。むしろ家族なら、余計に隠したい事だろ」
33. 晴美「あたしは声も大きいけど、おつゆも多いタイプなのよねえ。毎晩、シーツがぐっしよりになっちゃうの」
34. まどか「だから聞いてないだろ。お父さんと晴美さんがえっちしてる姿、また想像しちゃっただろ。普通ならとっくに、家出してるレベルのデリカシーの無さだぞ」
35. 晴美「ネットでググったら、ペットシーツを下に敷けばいいって書いてたのよ。でも、わんちゃんもいないのに、ペットシーツを買うのもねえ。ご近所の人に見られたら、何てごまかせばいいのかしら。まどかちゃんは、どう思う？」

36. まどか「知らねえよ。っーか、ペットシートを使うとか、変な知識をあたしに教えるな。年頃だつて言ってるだろ」
37. 晴美「まどかちゃんには、そういう悩みはないのね。うらやましいわあ。でもたっぷり濡れないと、えっちの時、痛くない？」
38. まどか「知らないよ！ あたし処女だから！ そんなこと、まだ知らないのっ！」
39. 晴美「あらあ。どうして処女なの？ まさか、お尻でしてるとか？」
40. まどか「なんでだよ。単純に、彼氏がないからだよ」
41. 晴美「うーん？ どうして彼氏がないの？」
42. まどか「あたしが可愛くないからだよ」
43. 晴美「あらあ。そんなことないわ。まどかちゃん、あたしなんかより、とっても可愛いわよ？ だって、あのお父さんの娘なんだから。うん、可愛い、可愛い。モデルにだってスカウトされたこともあるんでしょ？」
44. まどか「でも、いつも言われるんだ……お前、ちっとも可愛くないって……」
45. 晴美「あら？ それは性格のお話？ そんなことないわよ。内面だつて、とっても可愛いと思っの」
46. まどか「こうして晴美さんに、冷たくしても？」
47. 晴美「うん。関係ないわ。まどかちゃんは、とっても可愛い」
48. まどか「可愛くないよ！ ちっとも可愛くないよ！ 晴美さんのこと、祝ってあげようよ、お母さんって呼んであげようと思っただのに！ でも、やっぱりできなくてっ！ こうやって冷たく当たってるしっ！ ああ、もう！ あたし、何か変なこと言ってるしっ！」
49. 晴美「もお、まどかちゃんったらあ。ぎゅっ、ぎゅっ、ぎゅーっ」

- 
50. まどか「晴美……さん……」
51. 晴美「いいのよ。まどかちゃんが可愛い女の子だってこと、お母さんは、ちゃんとお母さんとは違うの。だから無理しないでいいから、ね？」
52. まどか「う、うん……」
53. 晴美「さあ、ご飯が冷めちゃうわよ。はやく台所に行って食べましょ、ね？」
54. まどか「うん……」
55. 晴美「あー。お母さん、もう、お腹ぺこぺこだわあ」
56. まどか「あ、あの！ お、おか、おかあ……」
57. 晴美「なあに？」
58. まどか「お、お母さんとか、これで簡単に呼ぶと思うなよ！ あたしはまだ、晴美さんのこと、お母さんとは認めてないんだからな！」
59. 晴美「うーん、それは残念。もうひと押しだったかしら？」
60. まどか「で。今日のメニューはなんだよ」
61. 晴美「お父さんが大好きな、ハンバーグよお」
62. まどか「またハンバーグなのかよ！（小声で）ちえっ、しょうがないなあ……うちの、新しいお母さんは」

おわり